



3 自然共生社会

トキの野生復帰



キッサニアで暮らす
ほくたちのように、
協力していかなきゃ
いけないってこと。



経済社会での循環をうまく行って、
自然環境への負担を少なくして、
将来までずっと自然の恵みを
得られる社会のことを
自然共生社会といいます。



自然共生社会を築いていくには、
地球に暮らすすべての
生きものを仲間と思って、
いつまでも仲良くして
いきましょう。



田んぼでえさをついばむトキ

平成20年9月25日、新潟県の佐渡島で10羽のトキが放されました。それから1年が経って、佐渡島と本州で7羽が元気に過ごしています。また、平成21年9月29日にも佐渡島で新たに20羽のトキが放されました。環境省では新潟県や佐渡市などと協力して、平成27年頃に佐渡島に60羽のトキが定着していることを目標に、放したトキの状況を見守りながら、トキがえさをとったり、休んだりできる環境づくりに取り組んでいます。

なるほど TOPICS 草原の野草を利用し、環境を守る取り組み

熊本県の阿蘇の草原は、放牧や採草、野焼きなど、長い年月にわたり人々が生活や農業・畜産業のために手を入れたことにより、約22,000ヘクタールにも広がっています。また、多くの希少動植物が生息・生育し、年間1,800万人以上が訪れています。

しかし、化学肥料の普及や、農業を行う人の減少・高齢化で、草原の面積が減ったり、景観が変わったりしていることが問題となっていました。

このため、平成10年からボランティアが野焼きに参加し、農業・畜産業で野草の利用が進められています。近年では、秋の枯れた野草を集め、ガスにして、温水プールの電気と熱に利用する取り組みもはじまっています。この取り組みによって、二酸化炭素の排出を削減するとともに、草原の環境を守ることに貢献しています。



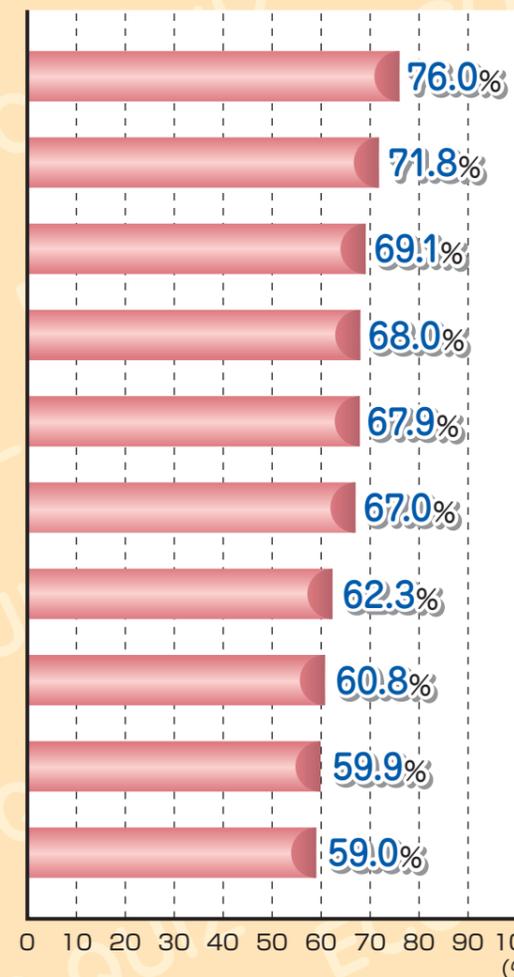
阿蘇草原における採草のようす
(写真提供:九州バイオマスフォーラム)

みんなでやってみよう! エコクイズ

下のグラフは、総理大臣をチームリーダーとする地球温暖化防止のための国民運動「チーム・マイナス6%」のアンケート収集結果です。〇〇の部分にながが入るのか、当ててみてください。(数字、カタカナ、漢字などが入ります。)

●アンケートに答えた1,860人のうち
実行できている人の割合

- 夏の冷房時の設定温度を〇〇℃から〇〇℃に2℃高くする
- ごみの分別を徹底し、廃〇〇〇〇〇〇をリサイクル
- 〇〇〇を見ないときは消す
- 買いもの際は、〇〇バッグを持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ
- 〇〇〇をこまめに切って待機電力を節約する
- 〇〇〇の扉を開けている時間を短くする
- 〇〇の少ない運転をする(自動車)
- 発進時に〇〇〇〇アクセル「eスタート」をする(自動車)
- ガスコンロの炎を〇〇〇からはみ出さないように調節する
- 冬の暖房時の設定温度を〇〇℃から〇〇℃に2℃低くする



(出典:「1人1日1kgCO₂削減運動」事務局)

正解!

1. 夏の冷房時の設定温度を26.8℃から28℃に2℃高くする
2. ごみの分別を徹底し、廃プラスチックをリサイクル
3. テレビを見ないときは消す
4. 買いもの際は、マイバッグを持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ
5. 冷蔵庫をこまめに切って待機電力を節約する
6. 冷蔵庫の扉を開けている時間を短くする
7. 加速の少ない運転をする(自動車)
8. 発進時にエコアクセル「eスタート」をする(自動車)
9. ガスコンロの炎を弱火からはみ出さないように調節する
10. 冬の暖房時の設定温度を22℃から20℃に2℃低くする